

至誠館大学

科目名	教育相談の理論と方法			コード	1556
英語表記					
担当教員名	大石 由紀子			年度	平成28年度
基準年次	2年次	開講期	後期	単位数	2
授業形態		授業形式	講義	履修形態	教職
授業概要					
教育相談の意義を理解し、教育相談で活用される各種心理療法及びその理論的背景について理解を深める。そのうえで発達に応じた子ども理解と支援の方法について理論的に学び、実際の支援場面において用いることができるような支援技術をロールプレイ等を通して身につける。また、実際の現場で起こりうるケースを取り上げ、個別に支援方法を考えグループディスカッション等を通して他者の意見を参考にしながら自分の考えを深める。					
到達目標					
①教育相談の意義や必要性について理解する。					
②教育相談で活用される各種心理療法及び、その理論的背景について理解する。					
③発達に応じた子どもの理解や集団における子どもの理解について理論的に学ぶ。					
授業計画					
第1回	教育相談とは何か(学校における教育相談の位置づけ)				
第2回	子ども理解の視点と方法(観察法, 面接法, 心理検査)				
第3回	教育相談で活用される各種心理療法の理論(来談者中心カウンセリング, 指示的カウンセリング)				
第4回	教育相談で活用される各種心理療法の理論(行動療法, 遊戯療法, 箱庭療法)				
第5回	教育相談で活用される各種心理療法の理論(交流分析, 心理劇, ロールプレイ)				
第6回	児童期における子どもの問題行動の特徴(学校という場の問題, 適応上の問題, 環境の問題)				
第7回	児童期における子どもの問題行動の実際(学業不振, 社会的問題)				
第8回	児童期における問題行動に対する相談(理解の手順, 視点, 働きかけ)				
第9回	児童期における問題行動に対する相談の実際(ロールプレイや認知カウンセリング等)				
第10回	青年期における問題行動の特徴(適応上の問題, 環境の問題)				
第11回	青年期における問題行動(精神障害, 自殺)				
第12回	青年期における問題行動に対する相談(理解の手順, 視点, 働きかけ)				
第13回	青年期における問題行動に対する相談の実際				
第14回	各種相談機関との連携(児童相談所, 教育発達支援センター, スクールカウンセラー, スクールソーシャルワーカー)				
第15回	各種相談機関との連携の実際				
評価方法と基準			評価項目と割合(%)		
小レポート等の提出物－45% 定期試験－55%			出席	授業態度	レポート
上記の割合で総合的に判断する。					期末試験
				45	55
					0
授業外学習			テキスト、教材		
			なし		
参考書			受講生へのメッセージ		
『学校教師のカウンセリング基本訓練』 上地安昭 北大路書房					
キーワード					